

果樹カメムシ(チャバネアオカメムシ)越冬量調査

1 目的

果樹を加害するカメムシ類は、越冬数と5~7月の予察灯の誘殺数の相関が高いことから、果樹園での5~7月の発生量を予測するため、カメムシ類の中で、最も発生量の多いチャバネアオカメムシの越冬調査を行う。

2 調査方法

2月中旬頃に、東予10か所、中予10か所、南予20か所の計40か所から、それぞれ1地点2か所(各1㎡)の落ち葉を採取し、越冬量虫数を調査した。

3 結果

(1)越冬が確認された地点は0か所であり、昨年及び平年に比べて越冬確認地点率、越冬虫数ともに少ない(表1、図1)。

(2)新成虫の発生する8月頃までの発生量は平年に比べ、少ないと予想される。

表1 愛媛県内の果樹カメムシ(チャバネアオカメムシ)の越冬量調査

|         | H27  | H28  | H29  | H30  | H31  | R2   | R3   | R4   | R5   | R6   | R7   | 平年   | 10年間の順位 | 発生程度 |
|---------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|---------|------|
| 東予      | 0.70 | 0.00 | 0.20 | 0.90 | 0.50 | 0.60 | 0.20 | 1.00 | 0.00 | 1.50 | 0.00 | 0.56 | 10      | やや少  |
| 中予      | 0.80 | 0.50 | 1.40 | 2.30 | 0.40 | 4.40 | 0.40 | 0.70 | 0.20 | 1.00 | 0.00 | 1.21 | 11      | 少    |
| 南予      | 1.90 | 0.05 | 0.25 | 1.75 | 1.05 | 0.35 | 0.15 | 1.00 | 0.00 | 6.50 | 0.00 | 1.30 | 11      | やや少  |
| 全県      | 1.33 | 0.15 | 0.53 | 1.68 | 0.75 | 1.43 | 0.23 | 0.93 | 0.05 | 3.88 | 0.00 | 1.09 | 11      | 少    |
| 調査園地数   | 40   | 40   | 40   | 40   | 40   | 40   | 40   | 40   | 40   | 40   | 40   | 40   | -       | -    |
| 越冬確認地点率 | 52.5 | 12.5 | 22.5 | 67.5 | 32.5 | 35.0 | 17.5 | 42.5 | 5.0  | 67.5 | 0.0  | 35.5 | 11      | 少    |

※平年値は過去10年の平均値

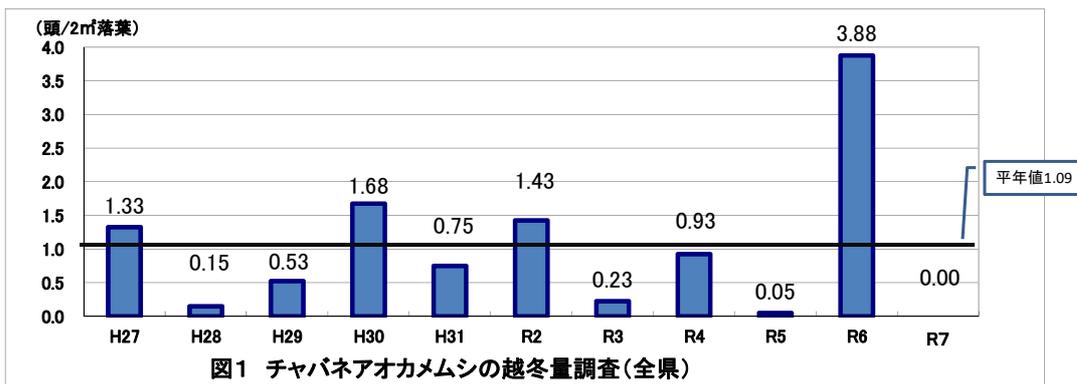


写真1:越冬場所である落葉を採集



写真2:25°Cの室内で飼育



写真3:チャバネアオカメムシ越冬成虫

<参考>

- ・果樹を加害する主要3種では、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの順に多い。
- ・いずれも成虫で越冬し、4月頃より活動を始め7月末頃まで生存し、モモ、ナシ等の果樹を加害する。その後8月頃から新成虫が発生する。
- ・チャバネアオカメムシは、クヌギ等の落葉下で越冬し、越冬中は暗褐色をしている。
- ・越冬量が多い年は、5月から7月の発生が多くなる可能性が高いと考えられている。
- ・4月からは予察灯、集合フェロモントラップによる誘殺状況のデータをHPに掲載予定。